

横田地域学校再編統合推進委員会
第1回学校部会

日時：令和4年9月29日（木）19:00～20:20
場所：雲州算盤伝統産業会館2階 大研修室

あいさつ

〔協議事項〕

1 交流・合同学習について

○交流・合同学習の意義について（鳥上小学校校長／横田小学校校長より）

- ・交流・合同学習のねらいは3つ。
 - ①再編統合に向けてより良い児童同士の人間関係を作る。
 - ②交流を通して、集団力、多様な価値観・人間観、上下学年意識、社会性、協力心の育成を図る。
 - ③集団の中での揉まれ合いを通じて逞しさを身に付ける。
- ・社会性や協力心は大人数の中で育つもので揉まれ合う経験が大切であり、交流学習は非常に有意義である。
- ・鳥上小学校は、令和6年4月に横田小学校に再編統合をすることが決定しており、対象となる4年生は1名である。
- ・今年度の交流学習については、R3年度から話を進めて、3学期のところですべての地区が同意されたので、次期担任を春休みに集めて短期間であったが毎月1回の計画を立てた。
- ・1人で横田小学校の中に入っていくということで不安に思っていたが、横田小学校の子どもたちが受け入れてくれて、スムーズに仲間に入ることができ、交流学習を楽しみにしている。6年生になり転入するときには、スムーズに仲間に入っていけると思っている。
- ・5・6年生についても毎学期1回横田小学校と交流をしている。
- ・中1ギャップという言葉があるが、中学生になり、学級の人数が増え、他校出身の生徒たちと新しい人間関係をつくらなければならないというストレスから学校にいけなくなったりすることもある。今回の小学校の再編統合により、「中一ギャップ」のように、小学生の「再編統合ギャップ」みたいなものを防ぐためにも、交流学習は重要であると感じている。
- ・対象となる児童については、幼稚園のときに横田幼稚園で一緒であったこともあって、すぐに打ち解けていき、特に壁はなかった印象である。
- ・交流学習の最初のところでは、仲良くなるオリエンテーションからスタートし、次に社会科見学などをし、学習できる関係性づくりや環境づくりをしてから学習につなげていきたい。
- ・来年度から4校が集まって交流学習をすることになり、4学年で実施することになる。遠足や陸上大会などからスタートしていったら、まずは仲良くなり、最終的に学習につなげていきたいと考えている。
- ・今は、ブックPCがあるので、それ活用して、道徳など遠隔で授業ができるのではないかと話しており、鳥上小学校とはトライアルとして10月からやってみようと話している。

▼交流・合同学習についての委員の皆様からの感想・ご意見

- ・交流・合同学習の重要性を認識した。交流・合同学習は非常に良い取り組みである。
- ・引っ込み思案の子にとっては、交流・合同学習は助かると思う。
- ・「個性があること」「違いがあること」も学んでいって欲しい。
- ・幼稚園でも他園との交流がはじまっている。幼稚園での交流も重要である。
- ・再編統合し、4校が集まるので、まずは、子どもたちが仲良くなるのが一番。
- ・交流学习は、低学年のころから重要視してやっていただけると良い。
- ・統合したときに子どもたちがすんなり学校やクラスに入っていけるようにやっていていただきたい。
- ・違いがわかるからふるさとを語るができると思う。
- ・特別支援学級に在籍していたときに他校と交流学习を保護者も同席して実施していただき、とても良かった。
- ・同じ鳥上地区の住民として、児童1名でどうなるか不安に思っていたが、今日お話を聞き安心した。
- ・幼稚園も他園との交流を増やしている。他園との交流をとおして新たな仲間づくりも子どもたちの成長につながっているし、大きな集団で人に触れておくと、いろいろな面が育まれるいいと思う。秋に、干し草ロールのお絵描きを八川、馬木、横田合同で実施する計画である。
- ・少人数でも異年齢で関わる方がいいところで、放課後児童クラブも併設しており、小学生との交流もいい刺激になっている。
- ・小さな拠点づくりなど地区の活動が盛んになっているので、地域の先生として子どもたちを育ててほしい。
- ・交流・合同学習が、人間関係づくりにとって非常に大事ということを共有したい。活動成果が曖昧にならないよう、活動前に評価の基準みたいなものをつくっておくといい。

※次回の部会までに実務者（担当教諭、社会指導主事等）で協議を行い、令和5年度から始まる4校での交流・合同学習の計画（案）を作成する。

○地域学習の現状

- ・ふるさと教育学習内容一覧（奥出雲町教育委員会教育魅力課提供）
学校再編推進課から資料の説明

・公民館活動について

各公民館長から小学校との関わり、公民館活動について説明

【横田公民館】

- ・「ふるまいよし、ふるさとよしの人づくり」を大きな柱に掲げてやっている。
- ・ふるさと学習では、横田地区の方でも頑張っている六日市自治会のオオムラサキの保存活動を知るため、3年生がオオムラサキの学習している。また、加食自治会でオオサンショウウオの保護活動をされており、4年生が斐伊川学習の一環として学習している。
- ・小学校と公民館とが話し合いをして、総合学習の内容などを決定した経緯があり、地元出身の教員が少なくなり、コーディネーター的な役割をされる方がおられず、公民館がその役割を担い、地域の人材や地域での行事をコーディネートしている。
- ・結果的に活動が「やりっぱなし」になっている。年度末に担当の教員と公民館としてしっかり話をして、来年度のことを協議する時間を持たないのが課題。
- ・特に4つの地域の小学校が一緒になるということで、統合小学校と各公民館との連携が課題になると思う。

【八川公民館】

- ・公民館で企画するものは、主に体験活動で「そば打ち」「しめ縄作り」など。体験プラス世代間交流ということで、高齢者との関わりも考えて実施している。
- ・八川地区独自の取組みとして「通学合宿」をやっている。公民館に寝泊まりをして学校に通うもので、団体での生活を体験させる、ルールを守らないといけない等、そういった体験をしている。
- ・近年は、地区振興会の方に若者会があり、小さな拠点づくり推進委員会の中にも若い方がたくさん参加しており、若い方を前面に出して子どもたちとの関わりを持つような企画を増やしている。
- ・ふるさと八川をいつまでも思ってくれる子どもに育てていってけるように事業展開をしている。

【馬木公民館】

- ・馬木公民館の活動は、まずは地域の伝統を守る・知るということで、5・6年生を対象に「小森子ども神楽」の取組みをしている。6月から11月の文化祭まで、子どもたち毎週水曜日に集まって夕方16時から1時間ほど練習をしている。今年度は、5・6年合わせて19名でやっており、地元の小森自治会から指導の先生にきていただいてやっている。発表の機会を設けて、地域の皆さんに披露をする。
- ・地域の人を知る、馬木の自然を知る、地域の食を知るという活動をたくさん実施しているが、いずれの活動も小学校と連携した事業で、小学校にご配慮いただき毎年実施できている。
- ・夏には、サマースクールの取組みを実施、勉強だけでなく「たたら」のことを学んだり、体験学習を取り入れてやっている。

●コーディネーター役について

- ・小学校と公民館の連携は、地域学習やふるさと教育において不可欠であり、統合小学校と公民館や地区の橋渡しをする「地域コーディネーター」の配置を検討していく。(複数の委員からも配置要望あり)

◆次回：令和4年12月中旬 19：00～20：30